

新健康フロンティア戦略賢人会議(第1回)

平成18年11月29日(水)
17時10分～18時30分
官邸大会議室

議事次第

1. 開会
2. 安倍内閣総理大臣挨拶
3. 議事
 - (1) 賢人会議の趣旨、今後の進め方 等
 - (2) 意見交換
4. 塩崎内閣官房長官挨拶
5. 閉会

新健康フロンティア戦略賢人会議の開催について

平成18年11月9日
内閣官房長官決裁

1. 趣旨

国民の健康寿命の延伸に向け、国民それぞれの立場等に応じ、予防を重視した健康づくりを国民運動として展開するとともに、技術と提供体制の両面からのイノベーションを通じて、病気を患った人や障害のある人も持っている能力をフルに活用して充実した人生を送ることができるよう支援する必要がある。平成18年度内を目途に「新健康フロンティア戦略」を策定する。このため、有識者の参加を得つつ、「新健康フロンティア戦略賢人会議」（以下「会議」という。）を開催する。

2. 検討事項

- 新健康フロンティア戦略の策定
 - ・ 戦略の目標
 - ・ 子ども・若年層、働き盛り層、女性、高齢者層といった国民それぞれの立場に応じた健康対策
 - ・ 生活習慣病対策、食育、がん対策の推進など健康寿命延伸に向けた重点対策
 - ・ 有病者・障害者・高齢者・介護者のための支援など身体機能の補完・強化等による人間の活動領域の拡張

3. 構成

- (1) 会議は、内閣官房長官、内閣府特命担当大臣（科学技術政策、イノベーション、食育）、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣並びに別紙に掲げる有識者により構成し、内閣官房長官が開催する。
- (2) 内閣官房長官は、有識者の中から、会議の座長を依頼する。
- (3) 会議は、必要に応じ、関係者の出席を求めることができる。

4. 分科会

会議は、必要に応じ、分科会を設けることができる。分科会の構成員は座長が指名する。

5. その他

会議の庶務は、厚生労働省の協力を得て、内閣官房において処理する。

(別紙)

新健康フロンティア戦略賢人会議メンバー

座長	黒川 清	内閣特別顧問
	春日 雅人	日本糖尿病学会理事長・神戸大学医学部附属病院長
	高橋はるみ	北海道知事
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社取締役会長
	土屋 了介	国立がんセンター中央病院院長
	土井美和子	(株)東芝 研究開発センター技監
	服部 幸應	服部栄養専門学校校長・医学博士
	増田 明美	スポーツジャーナリスト・元マラソン選手

新健康フロンティア戦略賢人会議運営要領 (案)

1. 賢人会議は、非公開とする。
2. 事務局は、会議における審議の内容等を、会議終了後、遅滞なく、適当と認める方法により、公表する。
3. 事務局が、審議の内容等を公表する際は、会議において配付された資料も併せて公表する。
4. 会議の議事要旨については、これを速やかに作成し、公表する。

（1）子どもを守り育てる分科会

◎黒川 清	内閣特別顧問
大杉 立	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
奥山千鶴子	NPO法人びーのびーの理事長
神尾 陽子	国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部長
土屋 律子	東京都福祉保健局医療政策部医療政策課歯科担当副参事
中島 洋子	まな星クリニック院長
服部 幸應	服部栄養専門学校校長・医学博士
藤本純一郎	国立成育医療センター研究所副所長
松平 隆光	日本小児科医会副会長
桃井真理子	自治医科大学小児科教授

（2）女性を応援する分科会

◎服部 幸應	服部栄養専門学校校長・医学博士
青木 大輔	慶應義塾大学医学部産婦人科学教室教授
阿部 啓子	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
海原 純子	白鷗大学発達科学部教授・医学博士
霞 富士雄	順天堂大学医学部附属順天堂医院乳腺センター長
久野 譜也	筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻助教授
辻 一郎	東北大学大学院医学研究科社会医学講座教授
羽生田 俊	医師・医学博士
吉沢 豊子	東北大学医学部保健学科臨床看護学講座教授

(3) 働き盛りと高齢者の健康安心分科会

- | | |
|--------|-----------------------------|
| ◎春日 雅人 | 日本糖尿病学会理事長・神戸大学医学部附属病院長 |
| 青木 初夫 | アステラス製薬株式会社共同会長 |
| 今村 聡 | 日本糖尿病対策推進会議幹事 |
| 岡田 明美 | 兵庫県健康増進課長 |
| 久野 譜也 | 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻助教授 |
| 杉岡 洋一 | 九州大学名誉教授・JST 研究成果活用プラザ福岡総館長 |
| 辻 一郎 | 東北大学大学院医学研究科社会医学講座教授 |
| 土屋 了介 | 国立がんセンター中央病院院長 |
| 樋口 輝彦 | 国立精神・神経センター武蔵病院院長 |
| 中川 恵一 | 東京大学医学部附属病院放射線科助教授・緩和ケア診療部長 |
| 望月 真弓 | 北里大学薬学部臨床薬学研究センター医薬品情報部門教授 |
| 花田 信弘 | 国立保健医療科学院口腔保健部長 |

(4) 人間活動領域の拡張分科会

- | | |
|--------|------------------------------------|
| ◎土井美和子 | (株) 東芝 研究開発センター技監 |
| 伊福部 達 | 東京大学先端科学技術センター教授 |
| 小林英津子 | 東京大学工学部工学系精密機械工学専攻講師 |
| 杉岡 洋一 | 九州大学名誉教授・JST 研究成果活用プラザ福岡総館長 |
| 諏訪 基 | 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所長 |
| 西川 伸一 | 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長 |
| 森下 竜一 | 大阪大学大学院医学系研究科教授
アンジェスMG (株) 取締役 |
| 和地 孝 | テルモ代表取締役会長 |

新健康フロンティア戦略策定に向けた検討事項（案）

I. 戦略の趣旨

国民の健康寿命の延伸に向け、国民それぞれの立場等に応じ、予防を重視した健康づくりを国民運動として展開するとともに、技術と提供体制の両面からのイノベーションを通じて、病気を患った人や障害のある人も持っている能力をフルに活用して充実した人生を送ることができるよう支援する。

〈戦略の実施期間〉

平成 19（2007）年から平成 28（2016）年までの 10 年間

現行戦略の視点を土台に、新たな視点も加え、対象政策の具体化及び拡大を図る。

II. 戦略の目標

現行数値目標（「生活習慣病対策の推進」、「介護予防の推進」）を土台に、新たな視点も加え、更なる戦略目標を検討。

III. 政策の内容

〈検討いただきたい事項（例）〉

1. 国民それぞれの立場に応じた健康対策

○子ども・若年層：『子どもを守り育てる健康対策』

(検討事項)

- ・子どもの頃から、健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむために必要な食育のあり方
- ・小児に対する救急医療や高度で専門的な医療の提供方策
- ・子どもの事故等への対処に係る普及啓発のあり方
- ・スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上施策等

○女性：『女性を応援する健康プログラム』

(検討事項)

- ・妊婦の健康対策のうち、重点的に推進する分野と推進方策
- ・産科医療の適切な提供方策のあり方
- ・思春期・子育て期・更年期の健康対策のうち、重点的に推進する分野と推進方策
- ・女性特有の疾病に対するきめ細かな対応方策
- ・乳がんや子宮がん等女性のがんに対するきめ細やかな対応のあり方等

○働き盛り層：『働き盛りの健康安心プラン』

(検討事項)

- ・職場、家庭、地域それぞれにおける健康づくり支援のうち、重点的に推進する分野と推進方策
- ・身体活動・運動によるメタボリックシンドローム対策の推進方策
- ・働き盛り層の食習慣改善方策等

○高齢者層：『地域で活躍する生き生き高齢者づくり』

(検討事項)

- ・地域で高齢者が活躍できる環境整備の推進方策
- ・認知症を防止するための日常生活上の活動の普及方策等

2. 健康寿命延伸に向けた重点対策

○『メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病対策の推進』

(検討事項)

- ・メタボリックシンドロームに着目した、糖尿病、心疾患、脳卒中等の発症・重症化予防対策とこれらに関する研究の推進方策
- ・身体活動・運動によるメタボリックシンドローム対策の推進方策
- ・糖尿病、心疾患、脳卒中等の適切な治療のあり方
- ・生涯にわたりスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現
- ・国民が自ら行う健康管理等を支援する健康関連産業の育成方策等

○『子どもの頃からの食育の推進』

(検討事項)

- ・子どもの頃から、健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむために必要な食育のあり方
- ・子育てを担う世代に対するあるべき食育のあり方
- ・働き盛り層の食習慣改善方策
- ・高齢者の介護予防のための栄養改善・食生活支援等のあり方等